

2定点におけるホンモロコの産卵状況と水温の推移

臼杵 崇広

◆背景・目的

水温の上昇はホンモロコの産卵期を早期化させることと併せて、成育期間が長期化することが予想される。そのため、結果として資源量が増える方向に影響することが考えられる。そこで水温上昇が産卵期間などに与える影響を経年的に追跡し、性比への影響など他の要因と併せてホンモロコ資源に与える影響を明らかにする。

◆成果の内容・特徴

- ・湖北町(湖岸距離約100m)および大津市(同約20m)地先のヨシ・ヤナギ帯において4月から7月までホンモロコの産卵状況をおよそ週に1回の頻度で調査した。
- ・その結果、湖北町では4月16日から7月2日まで、大津市では4月8日から7月1日まで産着卵が確認され、その期間における平均水温の範囲は湖北町では12.8℃から24.3℃、大津市では12.9℃から25.3℃であった(図1)。
- ・産卵のピークは湖北町では6月中旬、大津市では5月上旬であり、総産着卵数はそれぞれ64.6万粒、19.7万粒と推定された。

◆成果の活用・留意点

経年的に産卵状況および水温を追跡することにより、他の要因と併せてホンモロコ資源への影響を把握する必要がある。

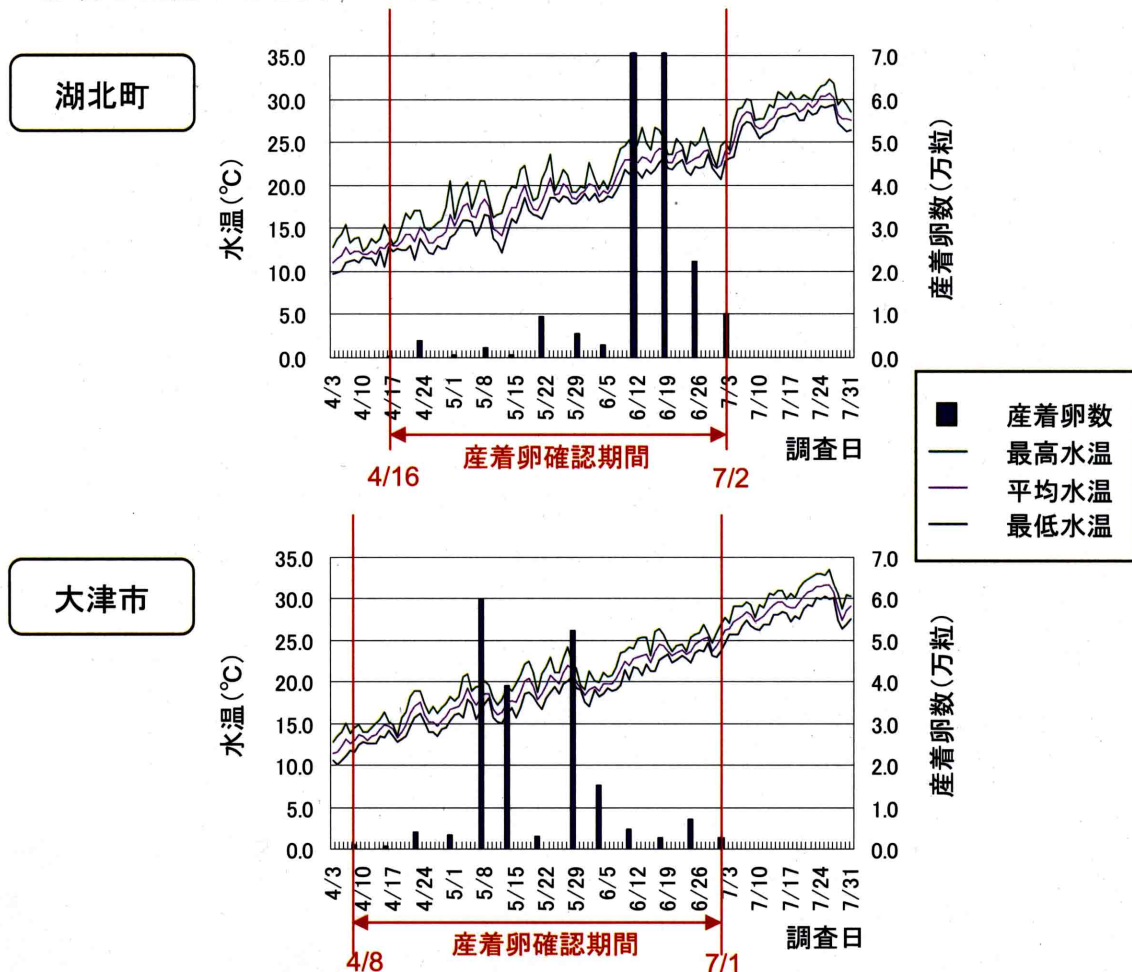


図1. 調査日ごとの産着卵数と水温の推移.